



文部科学省後援 第7回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2021年12月25日(土)、26日(日)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：オンライン開催 (Zoom)

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：東京大学生産技術研究所、公立大学法人大阪 大阪府立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、一般社団法人
日本英語交流連盟、一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団



参加校：

(北海道) 北海道釧路湖陵高校(青森県) 青森県立青森高校、八戸聖ウルスラ学院高校(岩手県) 岩手県立一関第一高校、岩手県立盛岡第一高校(宮城県) 宮城県宮城第一高校(秋田県) 秋田県立角館高校(山形県) 山形県立山形東高校、(茨城県) 東洋大学附属牛久高校、清真学園高校(栃木県) 栃木県立宇都宮高校、栃木県立宇都宮東高校、栃木県立佐野高校、作新学院高校(群馬県) 群馬県立前橋高校、高崎市立高崎経済大学附属高校(埼玉県) 埼玉県立浦和高校、埼玉県立浦和第一女子高校、さいたま市立浦和高校(千葉県) 翔凜高校、渋谷教育学園幕張高校(東京都) 東京都立日比谷高校、東京都立西高校、東京都立小石川中等教育学校、東京都立両国高校、東京都立富士高校、東京都立三鷹中等教育学校、千代田区立九段中等教育学校、筑波大学附属駒場高校、渋谷教育学園渋谷高校、豊島岡女子学園高校、武蔵学園高校、獨協高校、品川女子学院 高等部、(神奈川県) 神奈川県立相模原高校、神奈川県立横浜翠嵐高校、神奈川県立湘南高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立多摩高校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、聖光学院高校、栄光学園高校、浅野高校、湘南白百合学園高校(富山県) 富山国際大学付属高校(福井県) 福井県立藤島高校(長野県) 長野県長野高校、長野県屋代高校、長野県伊那北高校、長野県松本県ヶ丘高校(岐阜県) 岐阜県立岐阜高校(静岡県) 静岡県立静岡高校(愛知県) 東海高校、南山高校女子部(三重県) 三重県立四日市高校、三重県立川越高校(京都府) 京都府立嵯峨野高校、京都市立日吉ヶ丘高校、京都市立堀川高校(大阪府) 大阪府立北野高校、関西創価高校、関西大倉高校(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校、神戸市立葺合高校、雲雀丘学園高校(奈良県) 奈良県立奈良高校(鳥取県) 鳥取県立鳥取西高校(山口県) 山口県立山口高校(徳島県) 徳島県立城ノ内高校(香川県) 香川県立高松高校(福岡県) 福岡県立東筑高校、福岡県立城南高校、福岡県立香住丘高校(熊本県) 熊本県立第二高校、熊本県立熊本商業高校、真和高校(鹿児島県) 鹿児島県立大島高校、

鹿児島県立鹿児島中央高校、鹿児島県立甲南高校、鹿児島県立鶴丸高校、ラ・サール高校（沖縄県）沖縄県立球陽高校、沖縄県立前原高校（熊本県）熊本県立八代高校

84 校

開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。（参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>）

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

予選 1：Plastic products should be taxed.

（プラスチック製品に課税をすべきである。）

予選 2：Parents of children who bully other children should face criminal charges.

（いじめをした子の親は、刑事罰に課されるべきである。）

予選 3：Japan should impose a diplomatic boycott of the Beijing Olympics.

（日本は、北京五輪の外交ボイコットをすべきである。）

予選 4：COVID-19 vaccination should be mandatory.

（新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種は義務化されるべきである。）

準々決勝：Wild fish catch should be prohibited and fish should be farmed.

（天然魚の漁獲は禁止し、魚は養殖すべきである。）

準決勝：Debate competitions should be held online rather than face-to-face regardless of the COVID-19 situation.

（ディベート大会は、コロナ禍に関わらず、対面よりもオンライン開催の方がよい。）

決勝：The U.S. military should not have withdrawn from Afghanistan.

（米軍はアフガニスタンから撤退すべきでなかった。）

キーノートレクチャー講師：

- 東京大学生産技術研究所 特任教授 米田 美佐子 氏
- リージョナルフィッシュ株式会社 C00 石本 俊輔 氏
- 立命館大学情報理工学部 教授・一般社団法人 ビブリオバトル協会 代表 谷口 忠大 氏

1 日目

本大会は昨年に引き続き、オンラインでの開催となりました。例年よりも20校枠を広げ、過去最大の84校の高校が本大会に参加しました。北は北海道から南は沖縄まで、全国から高校生・教員・見学者がZoomのミーティングルーム内に集まりました。数多い参加者で画面が埋め尽くされました。大会でのルール諸注意、PDA認定教育ジャッジの紹介、ジャッジ手順の確認が行われました。

開会式が終わると予選です。84チームが一斉にディベートを行います。1日目は予選が4試合行われ、その結果を受けて準々決勝に進出するチームが決まります。予選1の論題は「プラスチック製品に課税をすべきである。」です。食品の入れ物であるペットボトルや弁当箱、ディベートに用いているストップウォッチや電子辞書まで、プラスチック製品は生徒たちの身の回りに溢れています。その全てに税が課された場合どうなるか、賛成と反対の両方から意見が飛び交いました。



開会式の様子



予選1 ラ・サール VS 柏陽



鶴丸 VS 日比谷

予選1終了後は昼休みです。昼食を取りながら、Zoomのブレイクアウトルームを用いた交流会が行われました。季節に合わせた部屋の飾りつけをした学校もありました。

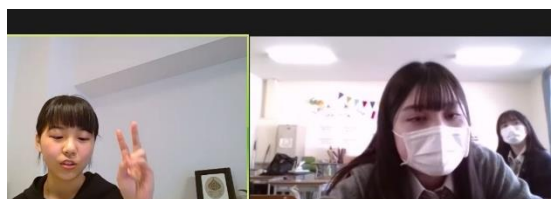


昼食交流会の様子

予選2の論題は「いじめをした子の親は、刑事罰に課されるべきである。」です。1試合目でジャッジにもらったアドバイスなどを参考にしながらも、親の責任や刑事罰のふさわしさについて白熱した議論が行われました。



予選2 富山国際 VS 武蔵

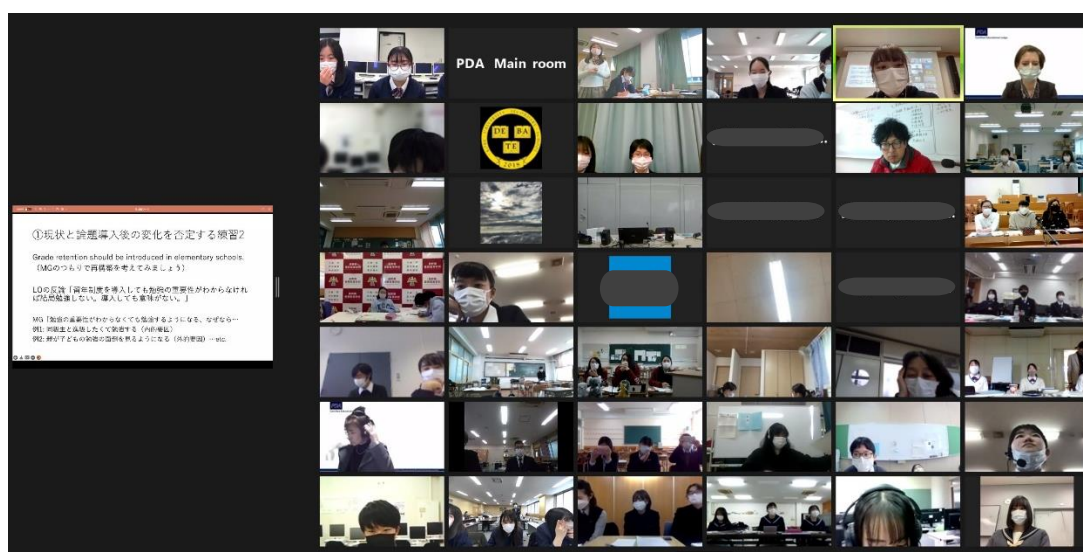


予選2 茅ヶ崎北陵 VS 九段



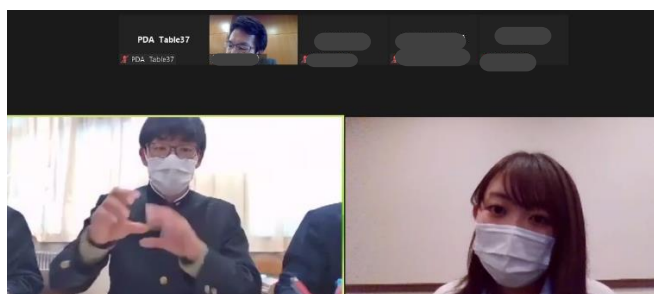
試合後はエア握手

2試合目と3試合目の間にレクチャーを行いました。ディベートにおけるそれぞれの役割で使える反論の作り方に関するワークショップが開催され、生徒たちは自分の考えた反論を披露しました。どの議題に関しても多くの手が挙がり、自身の技術を磨くために真剣に努力する姿が見られました。



反論の作り方に関するレクチャー

予選3の論題は「日本は、北京五輪の外交ボイコットをすべきである。」です。ホットな時事問題を前に、頭を悩ませたり、直前のレクチャーを活かした議論をしたり、一生懸命な姿勢が見られました。



予選3 釧路湖陵 VS 牛久



予選3 八代 VS 栄光



予選3 川越 VS 青森

予選4の論題は「新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種は義務化されるべきである。」です。日本においてワクチン接種が進められている今、生徒にとっても関心の高い論題でした。第4ラウンドは試合後のジャッジからの勝敗の発表はありません。翌日のブレイクアナウンスメントをお楽しみに！（翌日、各校へジャッジからのコメントシートが配布されます。）



予選4 横浜翠嵐 VS 浦和一女



予選 4 渋渋 VS 作新



予選 4 藤島 VS 浅野



奈良 準備中の光景

第 4 ラウンドが終わると外はすっかり暗くなり、熱中していた時間の長さに驚かされました。生徒たちも明日の発表への不安もありつつ、4 試合全力で成し遂げた達成感を感じさせるいい顔を見せ 1 日目が終了しました。

大会 1 日目はクリスマス当日でした。1 日頑張った生徒の皆さん、素敵な夜をお過ごしください。Merry Christmas!

2 日目

2 日目の最初は、決勝トーナメントに進むチームの発表 (Break Announcement) です。緊張した面持ちの生徒が続々と集まってきます。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次への学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジを 10 段階評価します。平均点が高かった 30 名の先生方が発表されました。おめでとうございます。上位に選ばれた先生方は決勝トーナメントでジャッジを務めていただきます。

次に、準々決勝に出場するチーム 1 位から 8 位までが発表されました。喜びの声が響き渡りました。

予選結果

- 予選 1 位 作新学院高校
- 予選 2 位 聖光学院高校
- 予選 3 位 筑波大学附属駒場高校
- 予選 4 位 千代田区立九段中等教育学校
- 予選 5 位 福井県立藤島高校
- 予選 6 位 渋谷教育学園渋谷高校
- 予選 7 位 長野県長野高校
- 予選 8 位 神戸市立葺合高校

準々決勝の論題は「天然魚の漁獲は禁止し、魚は養殖すべきである。」です。出場者が準備をしている間、東京大学生産技術研究所特任教授の米田美佐子氏から前日の第 4 試合に関して、新型コロナウイルス感染症を含めたウイルスとその対抗手段であるワクチンの開発についてレクチャーがありました。



麻疹ウイルスベクターを用いた新型コロナワクチンの開発

麻疹生ワクチンの優れた特徴

- ・ワクチン効果が高い
致死率の高い麻疹を完全に予防
液性免疫と強い細胞性免疫を獲得する
- ・免疫持続期間は極めて長い -- 終生免疫
- ・生ワクチンであるが、すでに安全性がヒトで確認されている
1960年代から世界中で使用、WHOによる麻疹撲滅キャンペーンで使用

米田 美佐子氏によるレクチャー

準々決勝は 4 つの会場で行われました。日本は海に囲まれた島国なので、魚は身近な食品です。養殖の技術も年々進化しており、天然と養殖がそれぞれの良さを活かして消費されるようになりました。食品としての質や生態系保全を軸とした議論が展開され、準々決勝は大いに盛り上がりました。



準々決勝 作新 VS 葺合



準々決勝 筑駒 VS 渋渋



準々決勝 藤島 VS 九段

準々決勝終了後は、お昼休みです。メインルームでは少人数に分けて生徒同士の交流会が行われました。2日目は大会本部がある大阪を含めた日本全国が寒波に見舞われ、雪の中登校した生徒も多くいたようです。



生徒交流会の様子

校長先生方とのご挨拶を行いました。本規模の大会が実現したのは校長先生方、教員の皆様のご理解のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。本全国大会では、授業へ持ち帰り可能な即興型英語ディベートを取り扱っており、学校として本活動にご支援いただくことで、参加者のみならず、普段の授業を通して多くの生徒・教員が即興型英語ディベートを広く利活用できますよう期待しています。



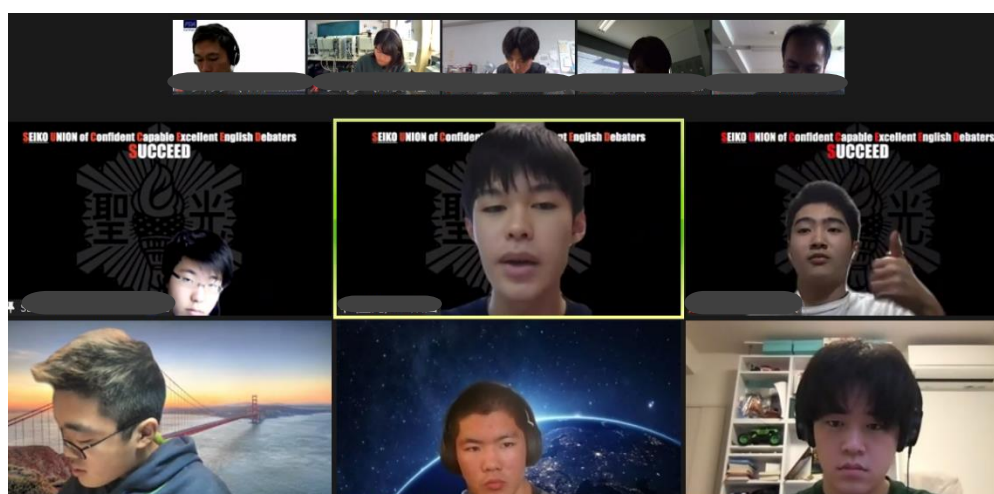
校長先生方との記念写真

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「ディベート大会は、コロナ禍に関わらず、対面よりもオンライン開催の方がよい。」です。15分の準備時間の間、リージョナルフィッシュ株式会社 COO の石本俊輔氏より準々決勝の論題に関するレクチャーがありました。食料問題、とりわけタンパク質の不足を解決するために行われてきた品種改良の歴史や今後の展望についてお話いただき、生徒からは突然変異に切り込んだ質問も飛び交いました。

天然	養殖
✓ 漁獲量は頭打ち	✓ 伸び余地は大きい
✓ 乱獲・環境変動による漁獲変化	✓ 赤潮や薬剤・残留による海洋汚染
✓ 水産資源の採取	✓ 設備設立や運用に係る環境負荷
✓ マイクロプラスチック、重金属など (※生物濃縮による蓄積)	✓ 生産条件をコントロールできる
✓ 環境影響が大きく、安定しない	✓ 工業化が進み、価格は安定してくる
✓ 天然のものが好まれる傾向	✓ 「養殖」は、天然より劣るものと考えられがち。

いつまでも、こんな比較になっているでしょうか？

石本 俊輔氏によるキーノートスピーチ・質疑応答



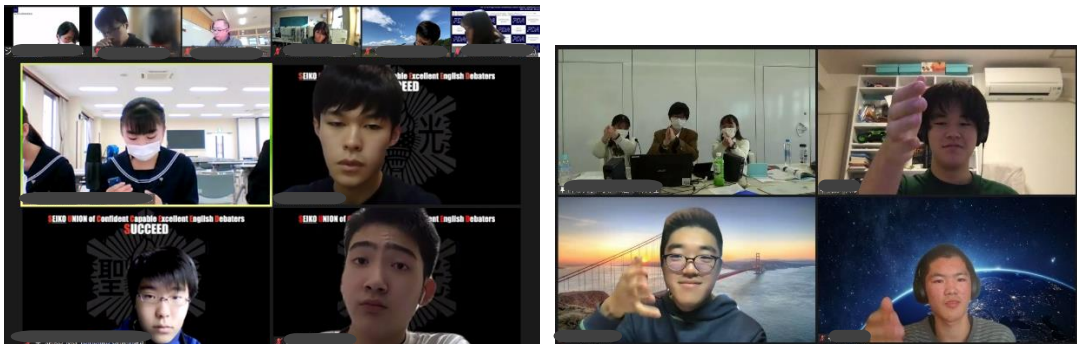
準決勝 筑駒 VS 聖光

準決勝のあとは、いよいよ決勝戦です。決勝の論題は「米軍はアフガニスタンから撤退すべきでなかった。」です。3位決定戦も同時に行われました。

また、決勝の準備時間の中に、立命館大学情報理工学部教授・一般社団法人ビブリオバトル協会代表の谷口忠大氏にレクチャーをいただきました。谷口氏はビブリオバトルの考案者であり、ビブリオバトルとパラメンタリーディベートではコミュニケーションにどのような違いがあるか、目的に応じた話し合いのルールを設ける重要性についてお話いただきました。



谷口氏によるキーノートレクチャー



3位決定戦の様子

決勝戦後、エア握手する生徒たち

決勝戦、3位決定戦が終了し、表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われました。また、文部科学省・外務省後援 第7回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会（ワールドコンGRESS）への出場権を手に入れた学校も発表されました。

第7回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

優勝：筑波大学附属駒場高校

準優勝：作新学院高校

第3位：聖光学院高校

準決勝出場チーム（第4位）：福井県立藤島高校

準々決勝出場チーム（ベスト8）：

- ・千代田区立九段中等教育学校
- ・渋谷教育学園渋谷高校
- ・長野県長野高校
- ・神戸市立葺合高校



PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

<授業導入優秀賞>

- ・熊本県立第二高校
- ・鹿児島県立大島高校

<授業導入賞>

- ・岩手県立一関第一高校
- ・岩手県立盛岡第一高校
- ・秋田県立角館高校
- ・山形県立山形東高校
- ・東洋大学附属牛久高校
- ・栃木県立宇都宮高校
- ・栃木県立宇都宮東高校
- ・栃木県立佐野高校
- ・作新学院高校
- ・埼玉県立浦和高校
- ・さいたま市立浦和高校
- ・翔凩高校
- ・獨協高校
- ・東京都立日比谷高校
- ・東京都立三鷹中等教育学校
- ・筑波大学附属駒場高校
- ・渋谷教育学園渋谷高校
- ・神奈川県立柏陽高校
- ・長野県長野高校
- ・長野県屋代高校
- ・長野県伊那北高校
- ・岐阜県立岐阜高校
- ・京都府立嵯峨野高校
- ・京都市立日吉ヶ丘高校
- ・京都市立堀川高校
- ・大阪府立北野高校
- ・関西創価高校
- ・神戸市立葺合高校
- ・山口県立山口高校
- ・徳島県立城ノ内高校
- ・福岡県立東筑高校
- ・福岡県立城南高校
- ・福岡県立香住丘高校
- ・熊本県立熊本商業高校
- ・鹿児島県立甲南高校
- ・沖縄県立球陽高校

<その他個人賞> (多数、個人名は略)

- ・ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI賞、文部科学大臣賞 (ベストスピーカー賞)

以上の結果を受け、第7回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の5校に進呈されました。

<1位~3位> 筑波大学附属駒場高校、作新学院高校、聖光学院高校

<授業導入優秀賞> 熊本県立第二高校、鹿児島県立大島高校

キーノートレクチャーの感想（抜粋）

- ・とても興味深かった。特にワクチンに関するものは、麻疹ワクチンを利用したコロナワクチンの存在がそんなこともできるのかと興味深かった。また有効性や免疫持続期間のデータを知らなかったので今後のディベートのときに活用しようと思う。（奈良）
- ・何度も講義が用意されていて幅広く知識を得られた。（前橋）
- ・生徒に考えてもらいたい論題ばかりでした。養殖に関しても、新鮮でした。魚だけに
^_^（葺合）
- ・時間もちょうど良く、スライドがとてもわかりやすく、幅広い分野の知識が得られて面白かったです。（鶴丸）
- ・ディベートをした直後に、扱われた話題についての知識についてレクチャーをうけることができたので、生徒はいつも以上に興味を持つことができたし理解も深まった。（静岡）

アンケートの声（抜粋）

【生徒の声】

- ・今回の大会でうまくできたスピーチ、その反対に失敗してしまったことがあったので他校の方やフィードバックで見つかった改善点を参考にして、これからも成長していきたいです！（相模原）
- ・この二日間はほんとうにたくさんの方のアドバイスをいただきありがとうございました。自分がまだまだ勉強不足であることを改めて思い知ったし、同時にもっと英語や他の勉強を頑張ろうと思った。（浦和一女）
- ・とても貴重な機会ありがとうございました。特にたくさんの方と交流できた事がこのコロナの状況下の中で特に嬉しかったです。また、とても質やレベルの中の高いディベートで圧倒されました。これからもディベートを頑張っていきたいです。（日吉ヶ丘）
- ・まずは、このような素晴らしい大会を開催して下さりありがとうございました！自分は一年生でチャレンジャーとして他の高校生にどんどん挑んでいこうという心境で大会に臨みました。また試合の中で自分が成長しているように感じられてとても嬉しかったです。来年もぜひ参加したいと思います！！ありがとうございました。（市立浦和）
- ・初めての経験であまり仕事を果たせなかったのもっと頑張りたいと思える大会になりました。（熊本商業）
- ・今回ジャッジして下さった先生がとてもハイレベルの先生で、フィードバックもとても勉強になりました。また他校の生徒とディベートで意見を言いながら交流出来たから良かったです。（富山国際）
- ・ハイレベルな論題で高度なディベートを実践できたことは貴重な経験だった。（岐阜）

- ・84校というたくさんの高校とディベートが出来て凄くいい経験だった。今回の大会でもっと上手になりたいと思った。頑張ろうと思う。(佐野)
- ・今回私はサポートでの参加で、ディベートに直接参加したわけではなかったのですが、ものすごく緊張しました。チームメイトも緊張していたと思うのですが、強い相手に当たった時でも圧倒されることなく、なんとか相手に食らいつこうと努力している姿がとても印象に残りました。私にとってもとても良い経験になりました。このような素晴らしい大会に参加する機会をくださり、ありがとうございました！（鳥取西）
- ・私自身は英語ディベートはほぼ初心者だったので不安もかなり大きかったが、様々な高校の方との対戦を通して表現や構成、反論の仕方など様々な学びを得ることができて、充実した時間を過ごすことができたと思う。(山形東)
- ・ジャッジの皆さんの評価がすごくわかりやすかったです。大会をするだけでなく高校同士の交流をする機会があったのでより楽しめたと思います。(関西大倉)
- ・ありがとうございました。決勝などで見学しながらジャッジをすることも、実際にディベートするのと同じくらい意味がありました。本当に楽しかったです。貴重な経験をありがとうございました。(雲雀丘)
- ・ディベートへの熱意を発揮できる場を設けて下さりとても感謝しています(聖ウルスラ)
- ・貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今後の部活でのディベートも頑張っていこうと改めて思いました。(両国)
- ・あと少しもう少しそう思うことが多かった。勝ったと思ったら負けていたりその逆も然り。ベストディベーター賞もあと一回もう少しで取れたと思う。ただ、この大会を目標に練習するなかで多くの能力を伸ばせた。(高崎経済)
- ・一日に四試合する機会は普段ないので、多くの試合を通して、自分の力を伸ばせたと思います。ディベートだけでなく、全国の高校生と交流したり、キーノートレクチャーで専門的なことを学んだりする機会があったのも、とても良かったです。この大会が高校生活で最後の全国的な大会になるのが残念ですが、ディベートを通して学んだことを生かしていきたいと思います。大会を運営してくださった皆様、ありがとうございました。(嵯峨野)
- ・他校との対戦や2日目の見学によって、自分の力不足がよく分かり、また学ぶことが多くありました。これからもっと上達したいと思いました。(都立西)
- ・ディベートの試合はもちろん、ジャッジの方のコメントもとても勉強になりました。また、他校と **make friends** できたのが楽しかったです。ありがとうございました。(藤島)
- ・自分を超える知識を持ち、スピーチの構成の工夫をできる同学年と交流出来たから。ジャッジの質も高く、質問にも丁寧に答えてくれたから。(甲南)

- ・自分が出場した試合では、アドバイスをジャッジの方にいただき1試合目に比べて大きく成長できたと思います。また、決勝戦では同じ高校生なのに現状、問題をここまで英語で述べる姿をみて刺激を受けました！（東筑）
- ・実力をつけて戻ってきたい（城ノ内）

【教員・見学者の声】

- ・大変意義のある2日間でした。理由は教育のイノベーションを起こす上で価値が大きいからです。楽しい、ワクワクする。そんな瞬間を味わえて感無量です。（教員）
- ・生徒教員ともども毎年大変刺激になっております。また来年の全国大会上位入賞を目標に精進して参ります。本年もありがとうございました。（教員）
- ・授業導入優秀賞をいただきまして誠に有り難うございます。今後ともさらに多くの生徒達が即興型ディベートに取り組んでいければと思います。有り難うございます。（教員）
- ・去年で出れませんでした、今年参加できて良かったです。毎年毎年大会がグレードアップされていくのを実感しております。本当に大学生や大学の先生方はすごいな～と実感します。色々勉強になりました！ありがとうございました。（教員）
- ・大変ありがとうございました。オンラインでの開催は、スタッフの方々の労力が計り知れあいものだと思います。（教員）
- ・他県のディベートの様子を知れて良かったです。勉強になりました。（教員）
- ・画面越しではなく、対面でディベートできる日が待ち遠しいです。（教員）
- ・今年もレベルの高いディベートを体験させていただき、ありがとうございました。大変勉強になりました。（教員）
- ・決勝などで見学しながらジャッジをすることも、実際にディベートするのと同じくらい意味がありました。本当に楽しかったです。貴重な経験をありがとうございました。（見学生徒）
- ・私は、見学でしたが、非常に楽しかったです！全国のレベルの高さに圧倒され、初めて知ることばかりでしたが、一年生の私にとって、すごくいい機会となりました。POIの質の高さや量の多さ、それに迅速に対応できる生徒の皆さん。話の流れをしっかり掴みとり、何を一番伝えたいのかを明確にしてディベートを行う姿は私にとって憧れ、そして自分にならなければならないものでもありました。今回の大会でたくさん学ぶことももちろんありましたが、他校の生徒の交流もでき、練習の機会も増えましたし、素敵な出会いもありました！今回大会を見学できて本当に光栄ですし、よかったなと心の底から思っております。この度は本当にありがとうございました。（見学生徒）

以上